

# 新時代のタブラ

ディアナ・ニコディノブスカ 民博 外来研究員

タブラもつてる？

よく覚えているが、わたしは二三歳のころからタブラにはまっていた。家族や友人と夏、故郷のマケドニアで休暇に行くときはいつもタブラを携え、

夜更けまで何時間もサイコロを転がしていた。出た目によってそれぞれのもち駒(石)を移動させていくだけなのだが、簡単そうに見えてやってみると奥が深い。タブラ趣味はいまも続いていて、外国にいたるときも、この楽しみを満足させてくれる相手を探している気がする。今回の京都での滞在も例にもれず、外国から来た人にときどき「タブラもつてる？」と尋ねている。友人をつくって故郷にいるような気分には最高級の手段で、実際、トルコ人のハサンにこの質問をして以来、一か月に二回は公園のベンチなどでタブラをやっている。

ルーツは古代メソポタミア

タブラは、広く「バックギャモン」として知られるボードゲームの一種で、古くはメソポタミアといわれたイラクのあたりに起源があるらしい。考古学の研究ではすでに紀元前三〇〇〇年も昔からあり、



それぞれが箱に入れたサイコロを振る。左側が筆者

碁やチェスとともに世界最古のボードゲームともいわれている。特に古代ローマでは大変人気だったらしく、ローマ語で「盤」を意味する「タブラ」がそのままマケドニア語名にもなっている。今日もとても盛んなヨーロッパの地域といえはトルコ、ギリシア、マケドニアとブルガリアだ。

## 安らぎの源

チェスと違って、タブラは複雑な戦略もいらぬし、サイコロが決め手の、運に左右されるゲームである。そのため、これらの国ではチェスやほかのゲームよりはるかに普及している。誰でもできるといふ簡単さのおかげで何世代も楽しんできた人びとには、最高の安らぎの源だ。各国内に普及したのはもちろんだが、いまでは移民の流れとともに広がってなかった地域や文化にまで広がりがつつある。ベルリンなどのヨーロッパの都市でも、カフェや公園のベンチで目にするのは珍しくない。ひよっとするとその人たちの母語は違うのかもしれない。しかしタブラを知っていれば、それだけでつきあい始めるには十分なのだ。